

日本語版 I R I (対人反応性指標) 作成の試み

野村弘平・赤井誠生・森川和則
(大阪大学大学院人間科学研究科)
キーワード: I R I 日本語版 共感性

Pilot Japanese Interpersonal Reactivity Index

Kohei Nomura, Seiki Akai and Kazunori Morikawa
(Graduate School of Osaka University)
Key Words: IRI, Sympathy, Japanese

目 的

Davis(1980, 1983)の対人反応性指標(Interpersonal Reactivity Index: IRI)はこの分野で広く使われているものであり、桜井(1988)、明田(1999)などによって日本語化の試みがなされている。しかしこれらにおいては、日本語化したものを因子分析した際に負荷しない項目が生じ、結果として項目数を減らさねばならないなどの問題があった。今回の試みでは、これまでの日本語化は原文の英語を直訳しようと試みたことに限界があったと考え、より原文の意味に近づける意識を行うことで、原典どおり28項目の日本語版IRI作成を目指す。

方 法

英文の尺度の和訳においては、逆転項目が集まって因子を形成してしまうという知見がある。先行の試みにおいてもその傾向が出ている。もともと、英文における「not」の位置と、日文における「～ない」の位置が異なるため、英文と日文では逆転項目の翻訳は不自然ならざるを得ない。カウンターバランスが必要ならば逆転項目が必要であるが、IRIの逆転項目はカウンターバランスを意図したものではない。従って、今回の試みにおいては、逆転項目を、逆転ではない項目として訳出した。また、日本人の回答者はアンケートの回答においてどちらでもない中央を選びやすいという知見がある。今回の試みにおいては、5件法の中央を「わからない」という表現にすることによって、中央がやや選ばれにくくなるように意図した。上記以外にも、先行の試みにおいて負荷が弱かった項目を原文に合わせて意訳しなおした。作成した質問紙を用い、複数回の調査を繰り返して文章を修正することで、原典の結果により近い質問紙を作成した。

結果と考察

作成した質問紙を用い、専門学校(15人(18才~44才、平均年齢22才、男性11人女性10人))を対象に調査を行った。逆転項目を正常項目に変更した悪影響は見られなかった。負荷が弱い項目について質問紙を修正した。

修正した質問紙を用い、大阪大学の学生97人(18才~63才、平均年齢20才、男性60人女性37人)を対象に調査を行った。「想像する」という言葉を用いた項目が集まって因子を作る傾向が見られたため、英語の「imagine」に比べて日本語の「想像する」という言葉は強すぎると判断し、想像性下位尺度の項目でのみ「想像する」という訳語を用い、他の下位尺度では「考える」などに修正した。

2度目に修正した質問紙を用い、専門学校(16人(18才~45才、平均年齢23才、男性10人女性10人))を対象に調査を行った。因子分析、確認的因子分析を行い、英文の原典と同じく、28項目が4つの下位尺度に7項目ずつ分かれることを確認した。

最終的に使用された日本語版IRIを以下に示す。使用法、各項目のより詳細な意味については、Davis(1994)、菊池(訳)1999、などを適宜参照されたい。

アンケート

それぞれの質問の内容が自分にあてはまるかを考えてマルをつけて下さい。

- Q 1、自分の身に起こるかも知れないことを、空想したり想像したり、いつもしている。
- Q 2、恵まれていない人たちを思いやったり心配したりすることがよくある。
- Q 3、他の人の立場に立って考えるのは得意だ。
- Q 4、問題を抱えている人を見るといつでも、かわいそうだと思う。
- Q 5、小説の登場人物の気持ちに強く同調してしまう。
- Q 6、緊急の状況になると、心配になり、落ち着かなくなる。
- Q 7、映画などを観るときは、物語に入り込んで観ることが多く、客観的に観ることは少ない。

Q 8、意見の不一致があるときには、すべての人の立場を考えてからどうするか決めたい。

Q 9、弱みにつけ込まれている人を見ると、守ってあげたいと思う。
Q 10、周りの人が感情的になっていると、どうしていいかわからなくなることもある。

Q 11、友達のことを、相手の立場からの物事の見え方を考えることで、より理解しようと務める。

Q 12、感動的な本や映画に、完全にのめり込んでしまうことがある。
Q 13、人がケガをするところを見ると、自分までドキッとしてしまう。

Q 14、知らない人でも、災難にあっている人は気になるものだ。
Q 15、自分が間違いなく正しいと思っているときでも、時間をかけて他の人の意見を聞こうとする。

Q 16、劇や映画を観た後は自分が登場人物の一人になったかのように感じる。

Q 17、周りのみんなが緊張している状況は怖く感じる。
Q 18、不公平な扱いを受けている人を見ると、かわいそうだと強く思う。

Q 19、緊急の状況をうまく処理するのは苦手だ。
Q 20、目の前で起きた出来事に感動することがよくある。

Q 21、問題があるときは2つの立場があると思い、両方の面を見ようとする。

Q 22、自分はとても思いやりのある人間だと言ってもいい。
Q 23、感動的な映画を観ると、すぐ主人公の立場になれる。

Q 24、緊急の状況になると、自分のコントロールができなくなりがちだ。

Q 25、誰かに腹が立っているときにも、いったんその人の立場から考えてみようとする。

Q 26、面白い物語を読むと、そのようなことが自分に起こったらどのように感じるか想像する。

Q 27、緊急の状況で助けを求めている人に会うと、どうしていいかわからなくなる。

Q 28、誰かを批判する前に、自分がその人の立場に置かれたらどのように感じるかを考えようとする。

ありがとうございました。最後に、年齢と性別を教えてください。
才 男性 / 女性

各質問の後に、『あてはまる ややあてはまる わからない ややあてはまらない あてはまらない』の選択肢が続き、回答者はそこにマルをつける。回収したものをデータ入力する際に、あてはまるを4、あてはまらないを0とする数値として入力する。逆転項目はない。

引用文献

- 明田芳久(1999) . 共感の枠組みと測定: Davisの共感組織モデルと多次元共感性尺度(IRI-J)の予備的検討 上智大学心理学年報, 23, 19-31.
- Davis, M. H. (1980) A multidimensional approach to individual differences in empathy. JSAS Catalog of Selected Documents in Psychology, 10, 85.
- Davis, M. H. (1983) Measuring individual differences in empathy: Evidence for a multidimensional approach. Journal of Personality and Social Psychology, 44, 113-126.
- Davis, M. H. (1994) Empathy: A Social Psychological Approach. Colorado: Westview Press.(デイヴィス M. H. 菊池章夫(訳)1999). 共感の社会心理学 人間関係の基礎 川島書店)
- 桜井茂男(1988) . 大学生における共感と援助行動の関係: 多次元共感測定尺度を用いて 奈良教育大学紀要, 37, 149-154.